

## 減少する歳入

一般会計の歳入は、前年度に比べて約6億4677万円、率にして約2.7%減少しました。中心的な財源である市税は、約1.1%とわずかに増加しましたが、平均的な行政サービスを行ううえで必要とされる財源の不足分を補うため、国から配

## 重点的な事業展開

分される交付税が、約4億8189万円、率にして約6.8%減少したことが影響しました。

一般会計の歳出は、前年度に比べ約6億9828万円、率にして約3%減少しました。この予算編成にあたって

## 【別表】特別会計・企業会計の決算 (単位:千円)

会 計 名	歳入決算額	歳出決算額	差引額	
特 別 会 計	住宅資金貸付事業	30,982	29,663	1,319
	国民健康保険事業	4,835,549	4,677,083	158,466
	老人保健	6,609,375	6,501,928	107,447
	真鍋島直診施設	26,836	25,462	1,374
	へき地診療施設	5,888	5,439	449
	下水道事業	3,117,459	3,080,511	36,948
	相生墓園事業	32,999	31,641	1,358
	土地造成事業	58,216	58,106	110
	工業団地造成事業	30,360	30,360	0
	介護保険事業	3,888,169	3,470,498	417,671
	介護サービス事業	106,849	102,711	4,138
計	18,742,682	18,013,402	729,280	
企 業 会 計	水道事業	1,316,277	1,269,707	46,570
	病院事業	2,553,920	2,544,527	9,393
	※企業会計は収益的収入及び収益的支出			

国の「三位一体の改革」が本格的な実施段階を迎え、国から地方への税源移譲の進展

よりも、地方交付税の大幅な抑制が先行されたことにより、笠岡市の歳入も極めて厳しい状況となっています。

は、財政健全化計画を進めながら行政サービスの低下を招くことがないように、大規模建設事業の抑制に加えて、人件費や内部管理経費を重点的に見直しました。また、市民ニーズに適合した施策に積極的な予算配分を行うとともに、予算の執行にあたっては決算重視の考えを徹底し、より効率的な財政運営に取り組みました。

## 財政健全化への取り組み

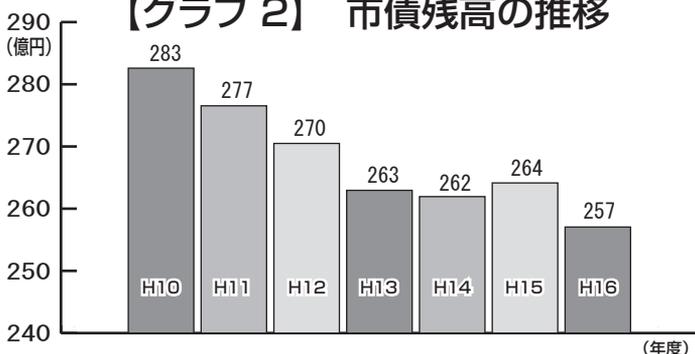
主な事業は、公民館活動助成などのWELLまちづくり事業に2710万円、豊浦ふれあい会館建設事業に4547万円、障害者福祉事業に5億4351万円、農業用施設の改良事業に5214万円、六島湛江漁港改修などの漁港整備事業に2億9000万円、市道生江浜岬線や西大戸堂ノ内線などの道路整備事業に4億8255万円、港湾の整備事業に1億24万円、十一番町緑道公園などの公園整備に7344万円、笠岡総合スポーツ公園の整備に2億4487万円、度重なる台風や高潮による災害復旧事業に2億3399万円などです。

平成16年度は、その前年度に策定した財政健全化計画のローリングを行い、人件費と内部管理経費の更なる削減や、事務事業の見直しなどを目標に掲げ、最重要課題として財政健全化を進めています。

普通会計ベース(※1)で財政の硬直化の度合いを計る指標となる経常収支比率(※2)は、平成15年度の92.2%から89.4%に改善したものの、一般的に望ましいとされている70(85%)には達していません。一方、道路や公園、学校建設などの大型事業を行うために借りた市債の残高は、【グラフ2】のとおり平成10年度をピークに年々減少しています。

このように、笠岡市の財政状況はゆるやかに改善の方向にあります。今後も、市のみならず国全体を取り巻く環境は厳しいものがあります。着実に財政の健全化を推進し、ゆるぎない財政基盤を確立することが急務となっています。

【グラフ2】 市債残高の推移



※1 普通会計：一般会計と特別会計のうち住宅資金貸付会計、へき地診療会計、相生墓園会計をまとめたものです。  
 ※2 経常収支比率：市税収入のように毎年度入ることが予定できる収入に対し、人件費や公債費に代表される毎年度支出せざるを得ない経費の割合。この割合が低いほど、社会資本整備や新たな行政サービスなどに使える財源的な余裕があるとされています。